No.17(2019)
和歌山大学附属図書館　パスファインダー

ラーニング・アドバイザーがおすすめする…

地域再生の基本

「地域再生」、「地域活性化」、「地方創生」など、地域・地方にかかわるキーワードが巷でよく聞かれますが、違いはなにか説明できますか？言葉が独り歩きしてしまい、社会で持たれるイメージはあいまいなのではないでしょうか。このパスファインダーで、地域再生とは何か、改めて考えていきます。公務員を考える人にはおさえるべき内容です。

発行：2020.2
和歌山大学図書館
作成：ラーニング・アドバイザー
(観光学研究科)

目次

１．地域とは？再生とは？

２．「地域再生」関連のことばの説明

２－１　地域振興

２－２　地域活性化

２－３　地域づくり

２－４　地域再生

２－５　地方創生

３．結局、地域再生って？

４．あとがき

1. 地域とは？再生とは？

最初に、「地域」と「再生」を分けて、一つひとつの言葉の意味を考えていきます。まずは「地域」から。岡田は、地域を人間の生活の領域としての地域と、資本の活動領域としての地域と区別しています（岡田、2004）。人間が社会的に活動する場である「地域」の最も基礎的な範囲は、私たちが日々生活している町内や集落といった地域であると述べています。

次に「再生」。デジタル大辞泉では、「衰え、または死にかかっていたものが生き返ること」とされています。

つまり、ここで「地域」と「再生」の意味をただ単に組み合わせると、「私たちが日々生活している町内や集落が衰えている状態だったが、生き返ること」となります。ですが、ちょっと漠然としていますよね？そこで、他に「地域再生」に関係することばについてみていきましょう。

2.「地域再生」関連のことばの説明

それぞれのことばはすべて意味が異なります。またそれらは時代ごとに違うとされます。そこで、小田切（2013）が述べていることばの相違点から、一つひとつの意味を紐解いていきましょう。

2-1　地域振興

地域振興は「○○市地域振興計画」などのように、行政的、中立的なニュアンスを持ちます。これは時代ごとのことばの違いはないとされています。

2-2　地域活性化

地域活性化は、バブル経済の時代である 1980 年代半ばに提唱されたとされています。1987 年のリゾート法制定により外来型経済開発（ホテル、ゴルフ場、スキー場など）が行われました。しかしバブル崩壊に伴い、開発予定地が未利用地として荒廃してしまったことから、1990 年代前半にはマスメディアにおいて使われる頻度が少なくなりました。これについては小田切編（第 2 章、第 3 章。2013）、嵩（2016）を並行して読み進めると分かりやすいです。

2-3　地域づくり

地域づくりは、地域活性化の反省の中で論じられるようになりました。地域活性化との違いとして、①内発性、②総合性・多様性、③革新性があるとしています。①については、「地域活性化」は外来型経済開発であったがために、地域住民の意思とは無縁であった反省を生かして、自らの意思で地域住民が立ち上がるというプロセスを目指しました。②については、どの地域でも同じような開発計画が並んだことから、福祉や環境などを含めた地域の総合型、地域の実情による多様性に富む地域づくりへと転換していきました。③については、人口が今後少なくなる状況を想定し、地域運営の仕組みを地域自らが再編し、新しいシステムを想像することだとしています。

2-4　地域再生

地域再生は、2000 年代に使われるようになりました。地域の疲弊が進み、「耕作放棄地」や「買い物難民」などの言葉が新聞紙上を飾った時期と重なります。従来以上に困難な状況からの地域振興であり、より強力な「地域づくり」が求められています。「危機の時代における地域づくり」を意味していると小田切は述べています。視点としては、農業、子ども、福祉、などを挙げることができます。

2-5　地方創生

地方創生とは、2014 年に第 2 次安倍内閣が掲げた東京一極集中を是正するための取組です。小田切はこの言葉については深くふれていませんが、JTB 総合研究所の定義では「各地域がそれぞれの特徴を活かし、自律的かつ持続的で魅力ある社会を作り出すこと」（「地方創生（地域活性化）とは何か・観光用語集」https://www.tourism.jp/tourism-database/glossary/regional-revitalization/ より）とされています。つまり、地域活性化を推進・促進させるために行う活動を指しています。

3. 結局、地域再生って？

岡田が紹介する用語に「地域内再投資力」があります。これは、地域内で生産されたものを地域内で消費することで、得た利益によりそれぞれが新たに投資する力がつき、地域内でお金が循環することを意味します。例えば、生産者が収穫した野菜を地域の加工業者が買い取ってピクルスに加工し、地域のレストランでハンバーガーの具材として提供することなどが挙げられます。こうすることで地域内でお金を循環させることができ、また生産者が新たな品種の栽培に着手するなど新たな投資も可能にします。これからはこの「地域内再投資力」の論理が重要であると岡田は述べています。

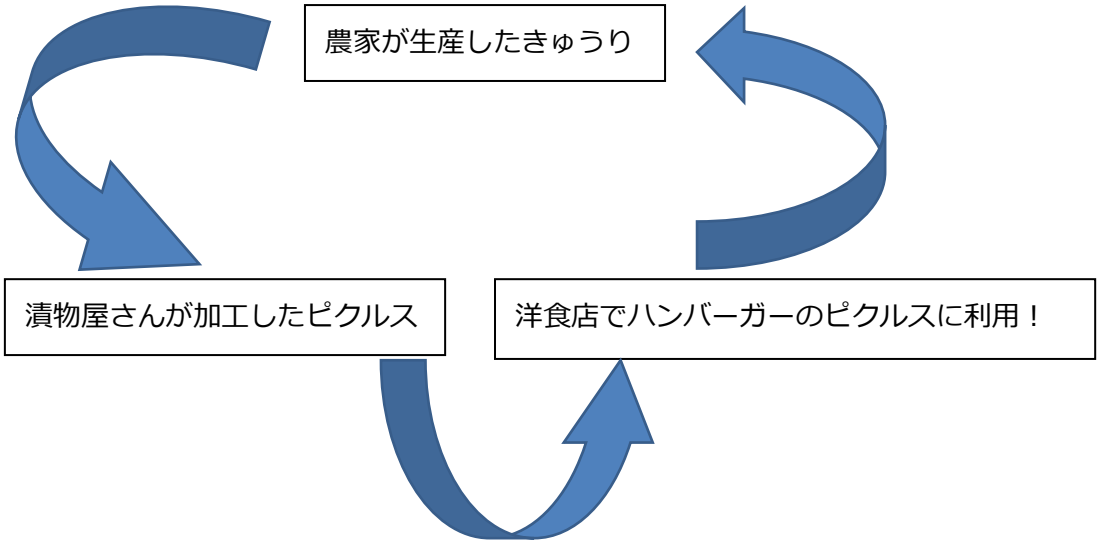

図　地域内再投資力の例

つまりここでの地域再生とは、体の中で血液が循環しているように、地域にある様々な主体が、地域で生産されたものを消費し、地域に還元できる状態を指していると考えられます。食べ物でいう「地産地消」と似た考え方と考えていただければと思います。

4.　あとがき

今回は、「地域再生」とは何かについて、いくつかの書籍を整理することでまとめてみました。「卒業後は地元で地域再生にかかわりたい！」と考える方もいらっしゃると思います。その時に考えてほしいのは、「地域再生とはどんな状態なのか？」と自分に問いかけてみることです。自分のかかわる地域がどの範囲なのか（県？市？町？村？地区？集落？）を把握し、その範囲で起こっている課題やどれだけの人口がいるのか、その内訳は、…と、様々な情報を集めてみましょう。そして、この地域ではどんな人が地域再生に関わっているのか、実際に会ってみるのも良いでしょう。この過程を経ることにより、「この地域ではこんな強みがあって、これが弱い。だからこんな人がかかわってこれを増やしていけば地域再生が可能だ！」といった筋道を立てることができると考えます。（公務員試験では最も重要な視点です！）

また、この視点は卒業論文で地域に出かけて調査をする際にも役立ちます。例えば、実際にフィールドに出かけて調査をするには、その地域の人口や産業など、自分の論文の根拠づけとなるデータを集める必要があるからです。

ここで紹介した図書は、すべて図書館にありますので、ぜひ手に取って読んでみてください。

参考文献

・岡田知弘『地域づくりの経済学入門』自治体研究社、2005 年、pp12-23
（配架場所：２階　開架図書　601.1||OT, 1000316970 ）
・小田切徳美編『農山村再生に挑む』岩波書店、2013 年
（配架場所：２階　開架図書　611.921||OT, 1000417841 ）
・大森彌共著『人口減少時代の地域づくり読本』公職研、2015 年
（配架場所：２階　開架図書　318.6||OW, 1000458842 ）
・小田切徳美・筒井一伸編著『田園回帰の過去・現在・未来』農山漁村文化協会、2016 年
（配架場所：２階　開架図書　318.6||S||3, 1000430676 ）

★本文中で紹介されている図書の探し方★
和歌山大学附属図書館トップページの OPAC 検索窓に、
１０桁の書誌 ID を入力して検索してください。
https://www.wakayama-u.ac.jp/lib/　和歌山大学図書館